

普及活動情勢報告（平成28年11月分）

須崎農業振興センター農業改良普及課

促成シシトウのGAPの取り組み ～みんなで確認！点検シート～



GAP取りまとめ結果説明

11月2日、JA土佐くろしおハウスシシトウ部会が出荷始め総会を開催し、32名の生産者が参加しました。そこで、農業改良普及課から前作のGAP点検シートの取りまとめ結果を説明し、異物混入や経営改善につながる改善点について提案しました。

生産者からは、「市場事故により産地の評価が落ちないように気をつけなければ」など、改善に前向きな意見も聞かれました。

農業改良普及課は、今後もJAと連携して生産者のGAPの取り組みを支援していきます。

関係機関で出荷場GAPを再検討 ～大間出荷場での点検活動～



点検活動の様子

11月9日にJAと連携し、JA土佐くろしお大間出荷場の出荷場GAPを再検討しました。農業改良普及課は、出荷場GAPのチェックシート改定案を作成し、このシートをもとに、JAの販売課、営農課職員とJA土佐くろしお管内最大の出荷場である大間出荷場を点検し、チェックシートの妥当性を確認しました。

農業改良普及課は、今後もJAと連携し、農家が生産した農産物の鮮度を維持しつつ、安全に消費者に届けられるよう、出荷場GAPの充実に向けた取り組みを実施していきます。

米ナス産地の交流を深めて ～米ナス生産者交流会の開催～



交流会の様子

10月31日に米ナス生産者、JAや振興センター等の関係者がJA津野山営農センター輝で、米ナス生産者交流会（以下、交流会）を開催し10名の生産者が参加しました。

農業改良普及課は津野山地域における産地の現状や、土着天敵（タバコカスミカメ）を利用したアザミウマ類等の害虫防除の実証について説明しました。

農業改良普及課は今後もJA等関係機関と連携して、交流会を毎年行うとともに、栽培技術の交換や共通課題の解決に向けて支援します。

農業の基礎知識を確認 ～新規就農者激励会で講演～



講演会で説明

10月26日、JA土佐くろしお4HCが新規就農者激励会を開催し、平成28年の新規就農者10人を含む15人が参加しました。農業改良普及課は、「農業の基礎知識」という演題で、栽培環境に応じた土づくりや植物生理の基本について講演をおこないました。

参加者からは、「日常的に使っている農業用語の基本的な意味を知ることができてよかった。」など、たくさんの意見が出されました。

農業改良普及課は、今後もJAと連携して新規就農者の育成に向けた取組みを実施していきます。

須崎ブロック指導農業士連絡協議会が設立 ～互いに連携へ！！～



協議会設立会の様子

11月3日、須崎ブロック（高南農業改良普及所を含む須崎農業振興センター管内）の指導農業士で構成する連絡協議会の設立会を農業改良普及課と普及所合同で開催し、指導農業士、関係機関併せて22人が参加しました。

農業改良普及課からは、担い手育成対策に関する情報提供や指導農業士間の情報交換を行う場とする等、協議会の設立主旨を説明し、参加者からの賛同を得て設立されました。

今後は、農業改良普及課と普及所が連携して定期的に協議会を開催し、指導農業士による担い手育成活動の充実に向けた支援を行っていきます。

中山間地域の農業所得向上の取組み ～平成28年産加工用ユズの集荷開始！～



加工用ユズ集荷の様子

JA津野山では10月21日から、力石茶工場でユズの集荷が始まり、集荷量の目標73tに対し、11月18日には100tを突破しました。

出荷にきた生産者からは、「今年は大玉が多い」「着色度を判断するのが困難なため、単価は下がるが全果の時期を待つ」といった意見が出ました。

そこで、少しでも高単価で出荷してほしいと、JAと連携し農家巡回をした結果、数戸の農家が出荷の時期を見極めながら、高単価期に出荷してくれるようになりました。

農業改良普及課は、JAと連携して円滑なユズの集荷体制を支援するとともに、果実の肥大状況を調査し、生産者・JAに周知していきます。

促成シシトウのGAPの取り組み ～みんなで確認！点検シート～



ハウスシシトウ生育調査

農業改良普及課では、11月の毎週月曜日に、環境制御技術に取り組むJA土佐くろしおハウスシシトウ部会生産者7名及びピーマン部会生産者3名のハウスで、生育調査を行っています。前週の生育調査と環境測定結果をグラフ化し、生産者に分かりやすい栽培支援を心掛けています。

生産者からは、「炭酸ガスを施用しだしてから果実の肥大が良くなった。」や「かん水は今の量で良いか。」などの意見が出されるなど、前向きな意見が多く聞かれました。

農業改良普及課は、生産者の環境制御技術の取り組みを支援していきます。